

1 調査名称：平成19年度 沖縄都市モノレール延長検討調査（その2）

2 調査主体：沖縄県

3 調査圏域：那覇都市圏

4 調査期間：平成18年度～平成20年度

5 調査概要：

平成15年8月に開業した沖縄都市モノレール（ゆいレール）は、開業から5年目を迎え、需要目標を上回る順調な利用状況で、県民及び観光客の定時定速の足として定着している。しかしながら、終点の首里駅は他の交通機関との結節機能が不十分であることから、モノレールの効果的・広域的な利用を進める観点から改善が求められている。

このような中で、当初計画で位置づけられたモノレールを首里駅から沖縄自動車道（西原入口）まで延長して、交通結節点を形成することで、高速道路との連携による広域的な公共交通基幹軸の形成により、中北部地域からの利用者の利便性向上が期待され、沿線地域の需要に応えることも可能となる。また、那覇都市圏の慢性的な交通混雑の緩和も期待され、モノレール株式会社の安定経営や沿線まちづくりの発展にも寄与する。

このため、首里駅からのモノレール延長の必要性を検証し、諸課題を踏まえ、望ましい延長ルートや整備方策及び整備効果等の検討を実施する。

モノレール延長ルートや整備方策等を「沖縄都市モノレール延長検討調査（その1）」で別途総合的に検討することとなっており、本調査では、道路と沿線まちづくりとの一体整備手法の検討、交通結節点の整備手法に関する検討、事業資金の検討及び検討委員会資料の作成と委員会・幹事会の開催・運営を行う。

< 調査成果 >

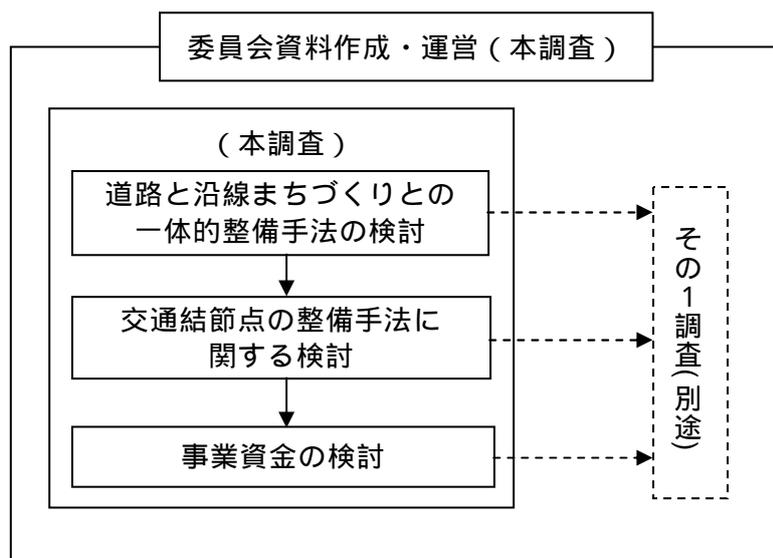
1 調査目的

平成15年8月に開業した沖縄都市モノレール(ゆいレール)は、開業から5年目を迎え、需要目標を上回る順調な利用状況で、県民及び観光客の定時定速の足として定着している。しかしながら、終点の首里駅は他の交通機関との結節機能が不十分であることから、モノレールの効果的・広域的な利用を進める観点から改善が求められている。

このような中で、当初計画で位置づけられたモノレールを首里駅から沖縄自動車道(西原入口)まで延長して、交通結節点を形成することで、高速道路との連携による広域的な公共交通基幹軸の形成により、中北部地域からの利用者の利便性向上が期待され、沿線地域の需要に応えることも可能となる。また、那覇都市圏の慢性的な交通混雑の緩和も期待され、モノレール株式会社の安定経営や沿線まちづくりの発展にも寄与する。このため、首里駅から沖縄自動車道(西原入口)までのモノレール延長の必要性を検証し、諸課題を踏まえ、望ましい延長ルートや整備方策及び整備効果等を総合的に検討する調査を実施する。

なお、調査にあたっては、主としてモノレール延長ルートや整備方策等を総合的に検討する「沖縄都市モノレール延長検討調査(その1)」と密接な関係があるので、連絡調整を図りつつ、業務を遂行するものである。

2 調査フロー



3 調査圏域図



4 調査成果

4 - 1 . 道路と沿線まちづくりとの一体的整備手法の検討

(1) A - 1 案

ルートの特徴

住宅地として都市基盤が未整備なままに、市街化が進行した地区を通るルートで、新たな都市計画道路の整備、沿線市街地の基盤整備による市街地の再生が期待される。

まちづくりのコンセプト

骨格となる幹線道路整備による安全で交通利便性の高いまちづくりを目指す。

計画的な住環境整備を推進した新しい魅力にあふれるまちづくり

まちづくりの仕組み

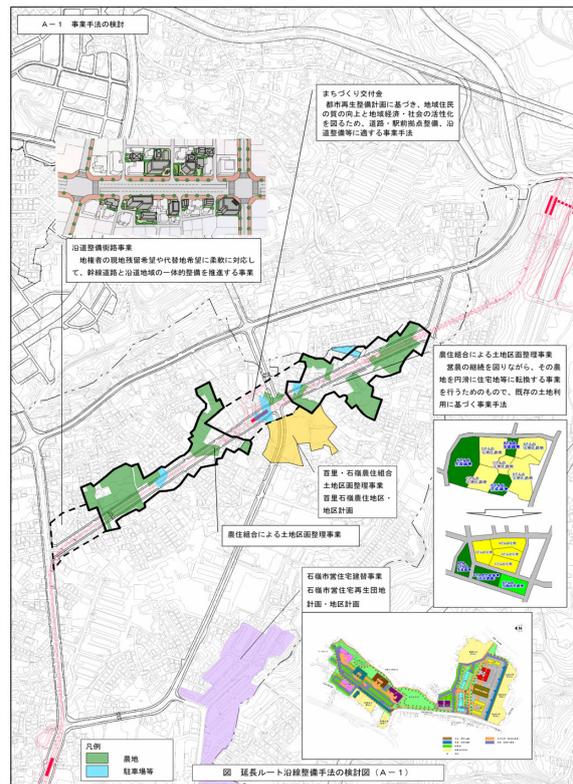
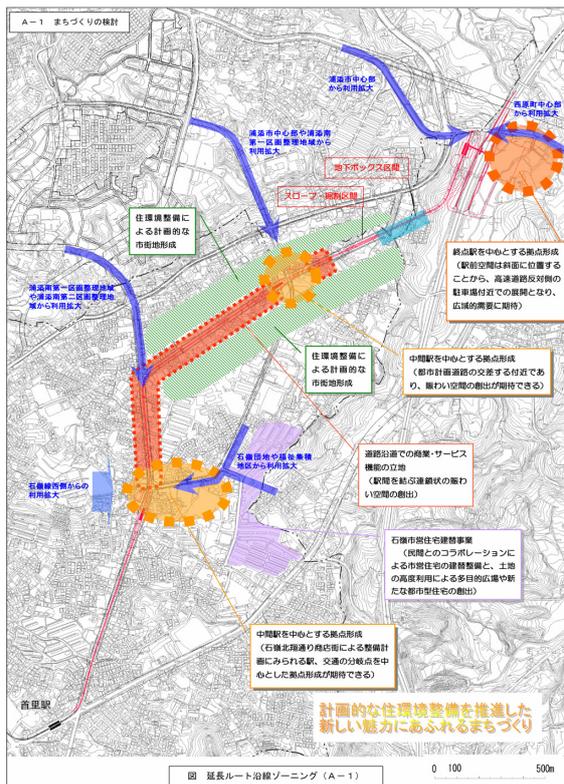
骨格軸となる都市計画道路整備

道路整備と一体的な事業による沿道市街地の基盤整備

交通結節点としてのモノレール駅を中心とした拠点整備

沿線街区における連鎖状のミニ区画整理による市街地整備

沿線街区に連担する市街地の幹線道路整備等による修復型まちづくりの推進



(2) A-3案

ルートの特徴

福祉集積地区(石嶺北翔地区計画) 首里石嶺農住地区等を通り、都市間を結ぶ幹線道路(宜野湾南風原線)を経由するルートで、福祉拠点へのアクセス利便性の向上や那覇・浦添両市からの利用拡大が期待される。

まちづくりのコンセプト

皆がやさしさを共有できる潤いのあるまちづくりを目指す。

福祉集積施設を拠点とした人にやさしく・いたわりのあるまちづくり

まちづくりの仕組み

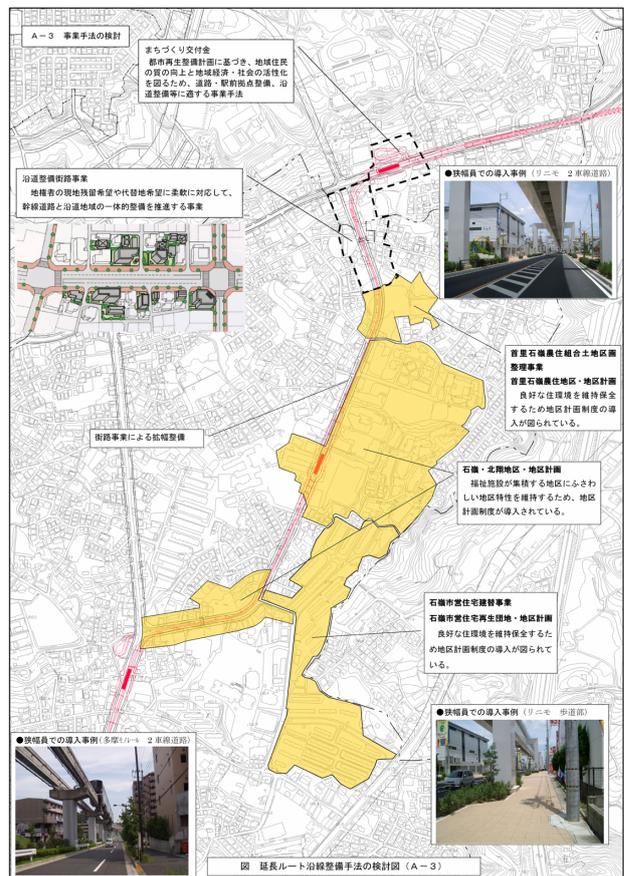
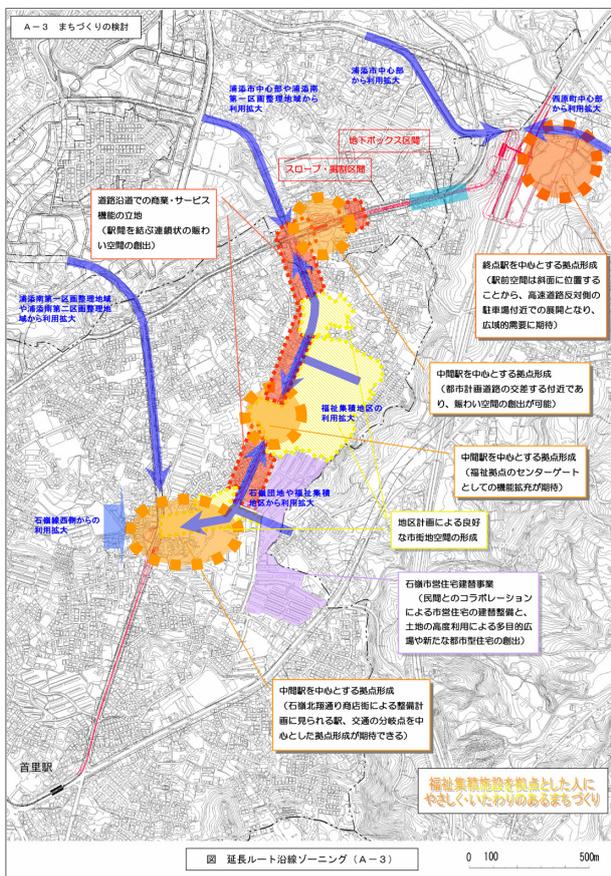
石嶺福祉センター線の幅広整備

福祉拠点のゲートとなるモノレール駅の整備

交通結節点としてのモノレール駅を中心とした拠点整備

沿線に展開する石嶺北翔福祉地区、首里石嶺農住地区計画の土地利用方針にもとづくまちづくりの推進

沿線街区に連担する市街地の幹線道路整備等による計画的なまちづくりの推進



(3) A-4案

ルートの特徴

那覇市の首里石嶺から北上し、区画整理（浦添南第一地区土地区画整理事業）により整備された街並みや沖縄国際センター線を通り、さらに都市間を結ぶ幹線道路（浦添西原線）を経由するルートで、新旧市街地の交通利便性の向上、那覇・浦添両市からの利用拡大が期待される。

まちづくりのコンセプト

都心と直結する快適で便利な都市生活の実現を目指す。

浦添市域も含めた広域的な交通利便性向上を実現するまちづくり

まちづくりの仕組み

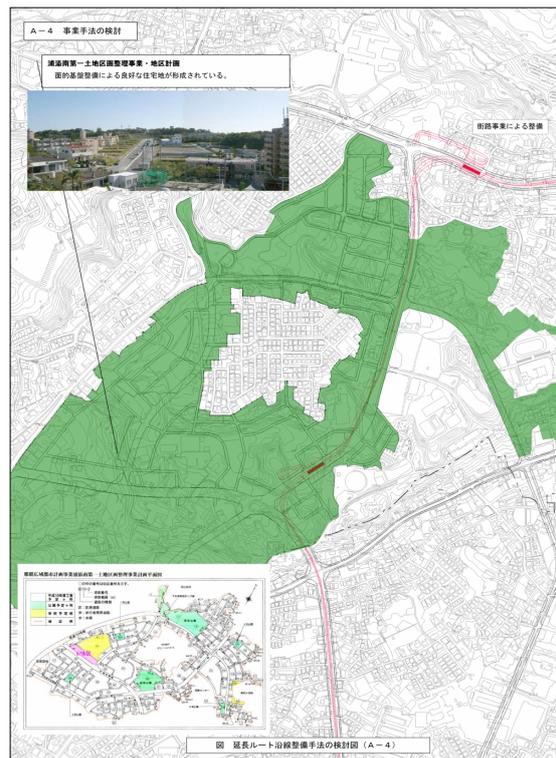
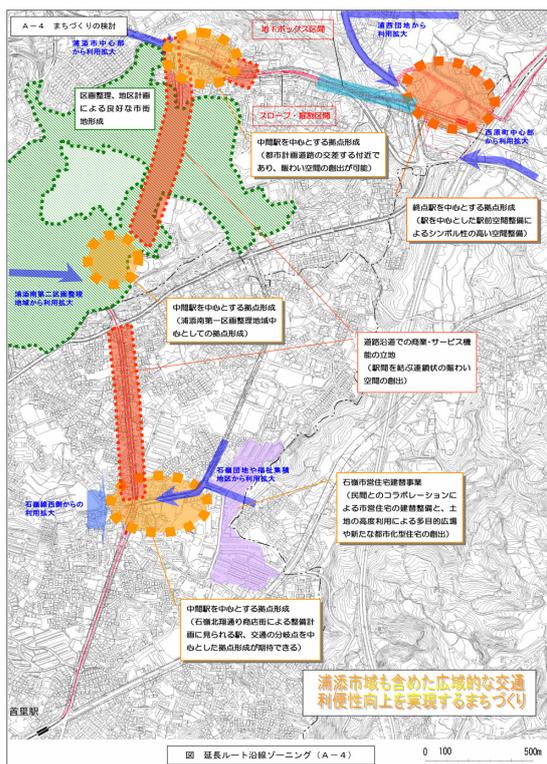
石嶺線及び沿道整備

浦添南第一地区土地区画整理事業による道路等基盤整備の推進
浦添西原線の拡幅整備

国際センター線沿線の複合都市機能の立地誘導

浦添南第一地区区画整理の地区計画による土地利用方針にもとづくまちづくりの推進

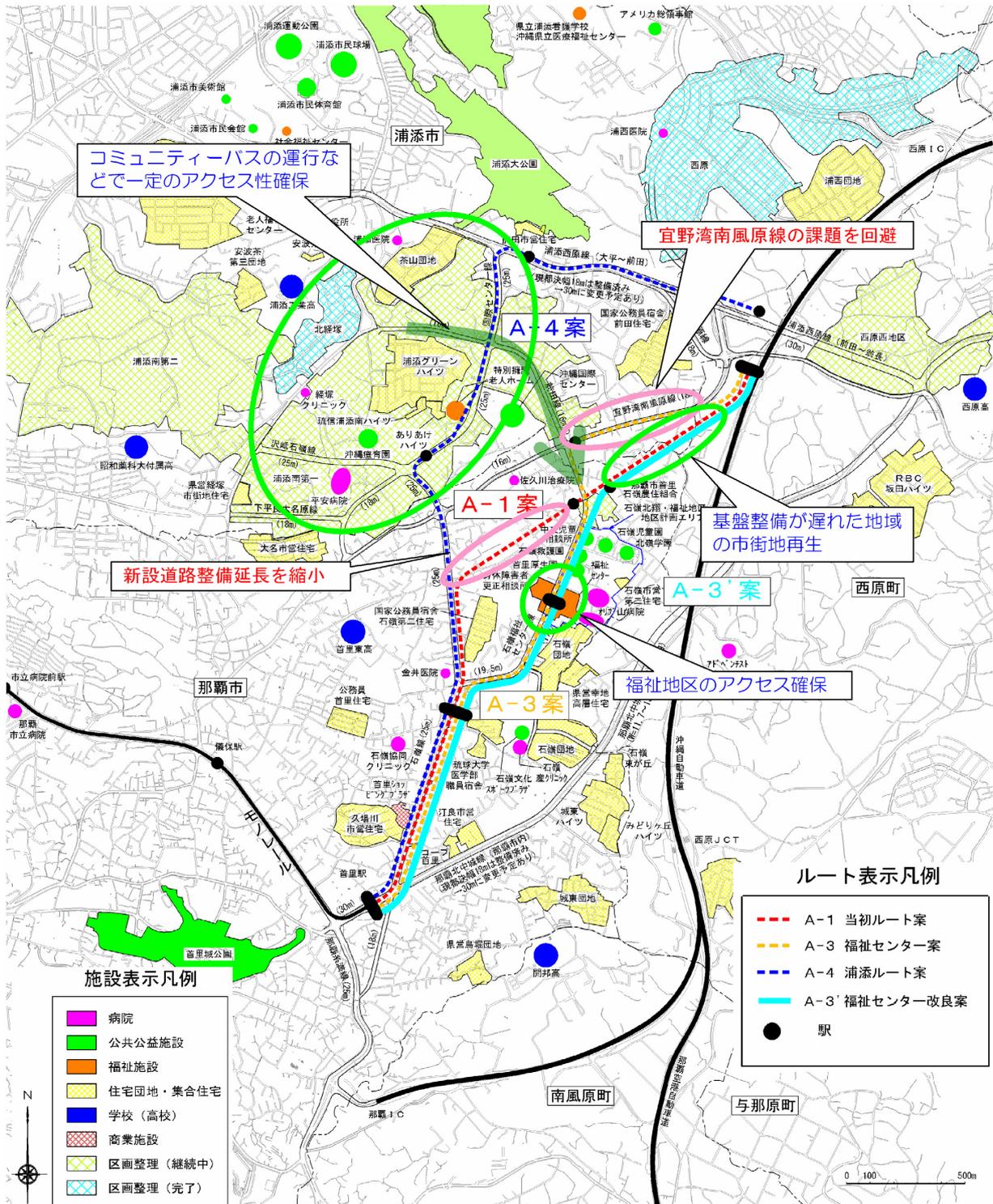
沿線街区に連担する市街地の幹線道路整備等による計画的まちづくりの推進



(4) A-1・A-3 折衷案 (A-3' 福祉センター改良案)

< A-3' 福祉センター改良案の提案理由 >

他の3つのルート案の課題を減らし、かつできる限り優れる点を集めた「A-3' 福祉センター改良案」を設定。



ルートの特徴

福祉集積地区（石嶺北翔地区計画）、首里石嶺農住地区等を通るルートで、福祉拠点へのアクセス利便性の向上や那覇・浦添両市からの利用拡大が期待されるとともに、都市基盤が未整備な地区における計画的市街地整備により市街地の再生を図る。

まちづくりのコンセプト

皆がやさしさを共有できる潤いのあるまちづくりを目指す。

福祉集積施設を拠点とし、計画的住環境整備によるまちづくり

まちづくりの仕組み

石嶺福祉センター線の拡幅整備

福祉拠点のゲートとなるモノレール駅の整備と、交通結節点としてのモノレール駅を中心とした拠点整備

沿線に展開する石嶺北翔福祉地区、首里石嶺農住地区計画の土地利用方針にもとづくまちづくりの推進

沿線街区における区画整理等による市街地整備

沿線街区に連担する市街地の幹線道路整備等による修復型まちづくりの推進

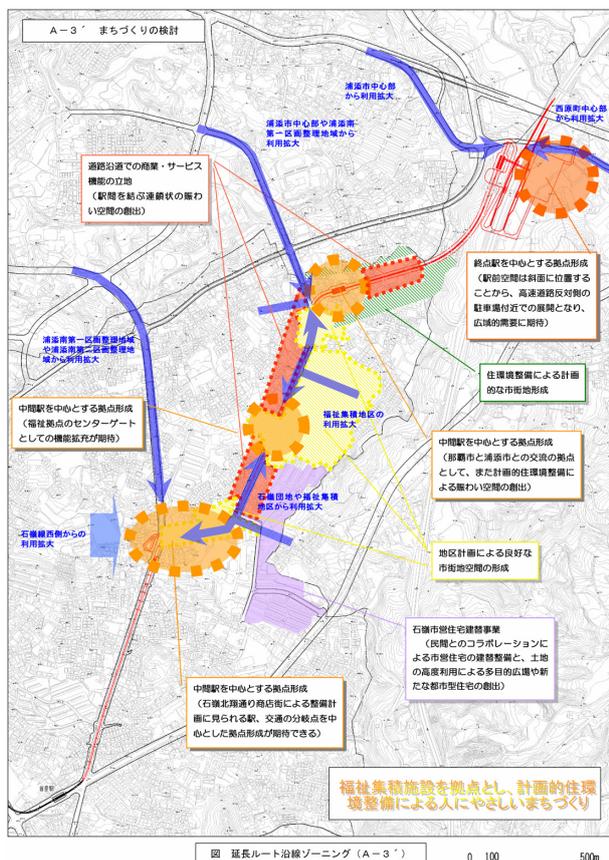


図 延長ルート沿線ゾーニング (A-3') 0 100 500m

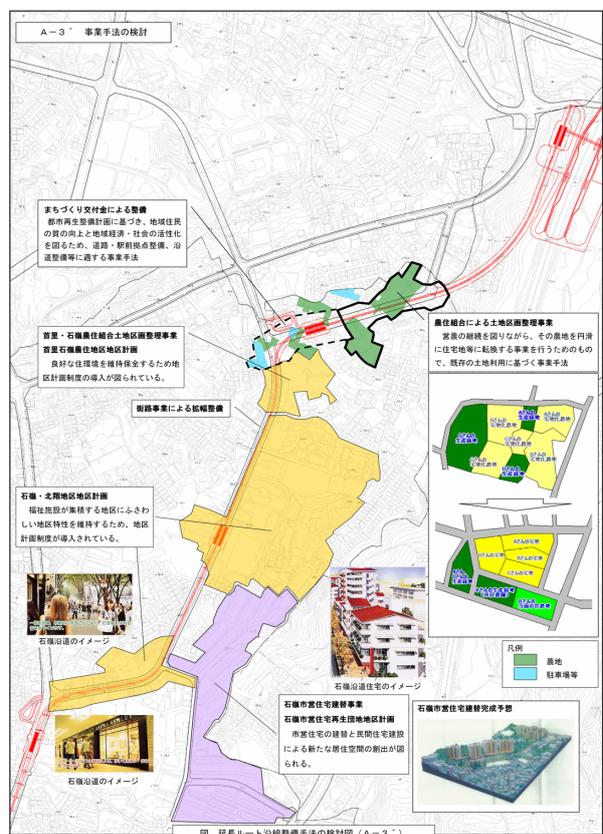


図 延長ルート沿線整備手法の検討図 (A-3')

4 - 2 . 交通結節点の整備手法に関する検討

以下の事業などを活用し、交通広場、アプローチ道路、駐車場等を整備。

交通結節改善事業

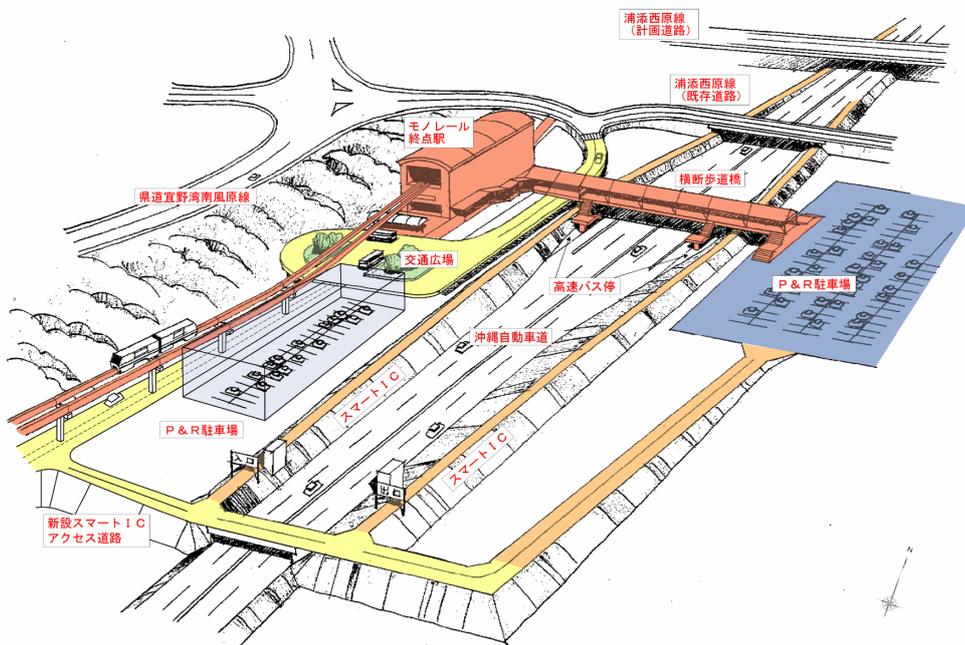
駅・まち一体化改善事業

「道の駅」の整備に関する事業

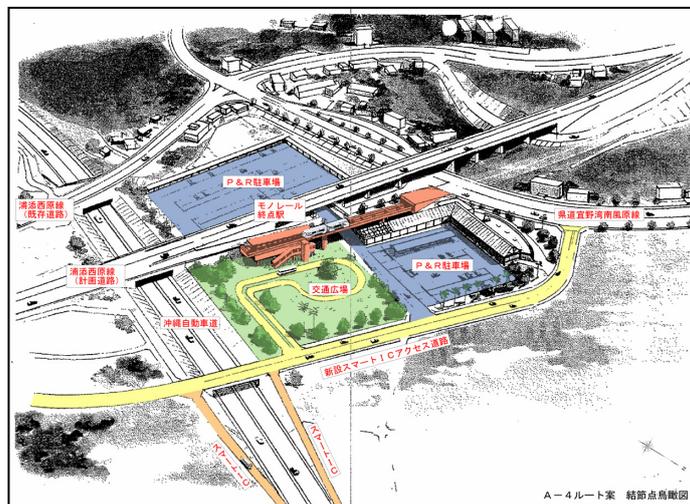
まちづくり交付金

S A ・ P A を活用した地域拠点整備事業

交通結節点イメージ：A - 3 案



交通結節点イメージ：A - 4 案



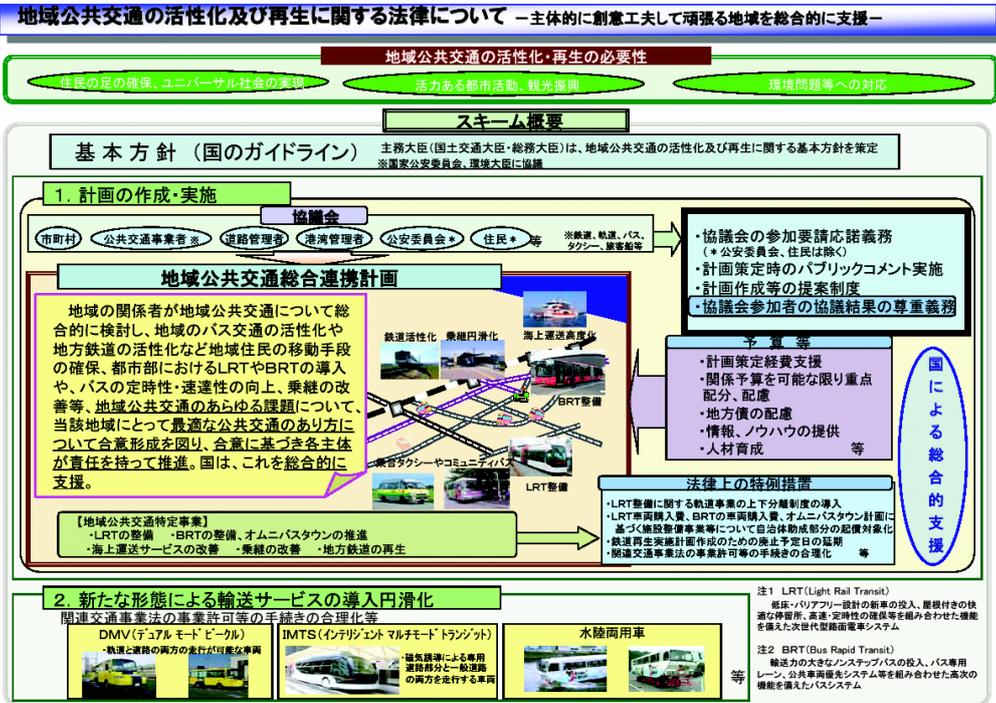
A-4ルート案 結節点鳥瞰図

4 - 3 . 事業資金の検討

(1) 公共交通のインフラ外部への国庫補助拡大の国の動向

公共交通に対する国の総合的支援制度

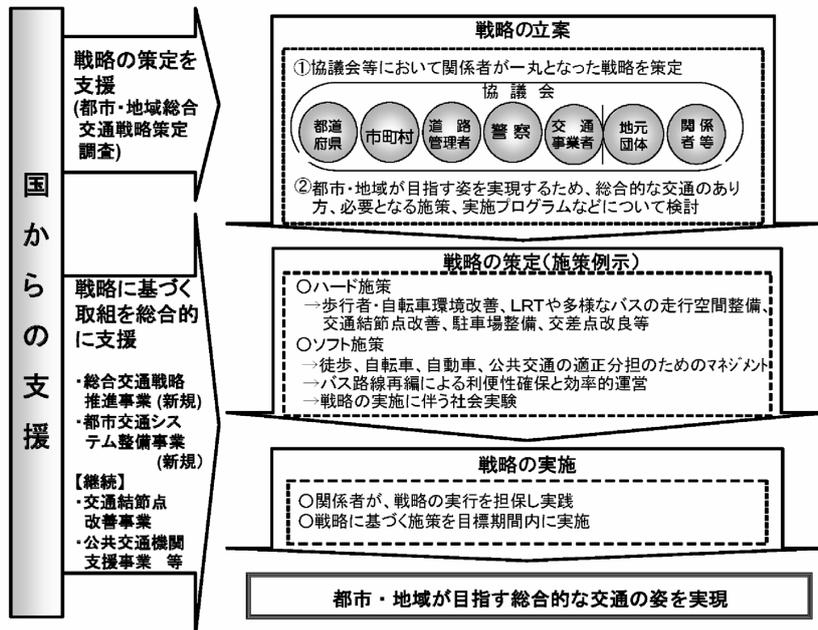
平成 1 9 年 5 月に法律が制定され、同年 1 0 月 1 日に施行。



総合的な都市交通の戦略に基づく施策の推進

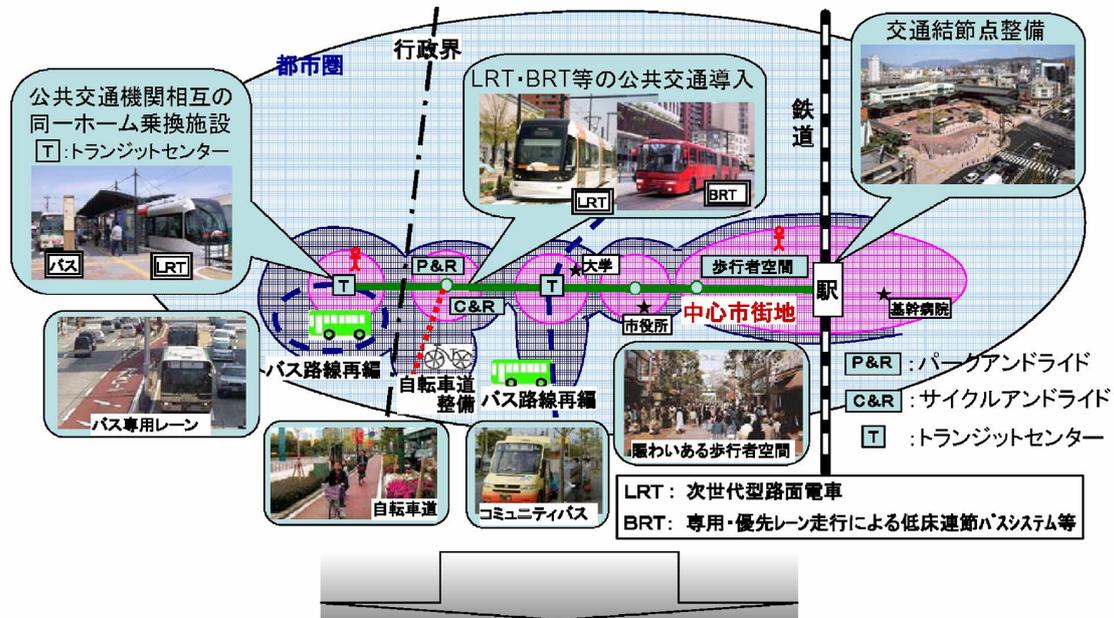
1) 都市・地域総合交通戦略の策定に対する支援

総合的な交通のあり方や必要なハード・ソフトの施策及びそれらの実施プログラム等を内容とする都市・地域総合交通戦略の策定が支援される。



2) 総合的な都市交通の戦略に基づく事業に対する支援

都市・地域においては、安全で円滑な交通を確保し、魅力ある将来像を実現するため、都市・地域総合交通戦略を策定することにより、徒歩、自転車、自動車、公共交通などのモード間の連携や交通結節点の整備が支援される。



徒歩、自転車、自動車、公共交通の適性分担が図られ、
交通円滑化、利便性向上、モビリティの確保を実現

(2) 費用負担

A - 1案、A - 3案、A - 3'案、A - 4案の、整備費用と負担区分について検討。

< A - 1案 >

既存の区間の協定も踏まえて、県と那覇市の負担割合を概ね等分となるように配慮。
石嶺線の県道認定を前提に、石嶺線と西原町内を県負担とし、新設道路を那覇市負担。

< A - 3案 >

既存の区間の協定も踏まえて、県と那覇市の負担割合を概ね等分となるように配慮。
現在の市道である石嶺線と石嶺福祉センター線を那覇市負担とし、県道宜野湾南風原線と西原町内を県負担。

< A - 3'案 >

既存の区間の協定も踏まえて、県と那覇市の負担割合を概ね等分となるように配慮。
石嶺線の県道認定を前提に、石嶺線と西原町内を県負担とし、石嶺福祉センター線と新設道路を那覇市負担。

< A - 4案 >

導入道路の管理者が負担するとの考えから、石嶺線は那覇市負担、国際センター線は浦添市負担、浦添西原線は県負担。

4 - 4 . 検討委員会資料の作成と委員会・幹事会の適切な運営

「沖縄都市モノレール延長検討調査(その1)」で検討された資料に基づいて、幹事会を4回、委員会を3回開催して運営を行った。

第5回幹事会：平成19年 7月20日(金)

第5回委員会：平成19年 8月29日(水)

第6回幹事会：平成19年10月16日(火) (WGと同時開催)

第7回幹事会：平成19年10月26日(金)

第6回委員会：平成19年11月 2日(金)

第8回幹事会：平成20年 3月 6日(木) (WGと同時開催)

第7回委員会：平成20年 3月21日(金)